

分散和音はフィンガーペダルですべてがよく響くように

“運命の動機”が繰り返された後、135小節目から再現部となります（譜例13）。展開部からの切迫感を受け継いだ形で始まるため、従来の再現部の印象とはずいぶんかけ離れています。左手で鳴らされ続ける3連符は『神曲』の煉獄で燃え盛る炎のようで、*pp*という指示があっても熱さを十分に残した主題の再現でなければなりません。ですから右手のオクターブは決してレガートを失わず、軽い響きにならないためにも親指（下声部）の深い打鍵を意識しましょう。

強い焦燥感を伴って開始した再現部は、長大なクライマックスを抱えたままコーダ部へと急ぎますが、その嵐の前の静けさにあたるのが203小節目からの楽想です（譜例14）。左手がピアノの最低音域で第1主題を回想する中、右手は高い音域で小鳥の羽ば

たきのようなパッセージで、第2主題に向かう飛翔を続けます。この右手が実に難しく、特に本番では緊張を強いられるところです。音型のパターンが細かく変化する上に、完璧な粒揃いによる*pp*が求められ、指先は精密機器のようなタッチが必要です。腕が疲れ切っている状態でこの8小節間をクリアするには、極めて高い集中力と忍耐力が問われます。

変ニ長調による第2主題Aはすぐに嵐に飲み込まれ、218小節目からは岩を砕くような分散和音の連続になります（譜例15）。ここではダンパーペダルのはたらきだけでは足りないので、フィンガーペダルによって分散和音のすべての音がよく響くようにしましょう。左手のオクターブ和音に合わせて同時に踏み込む“アクセント・ペダル”を施せば、*ff*のインパクトは絶大なものになります。

譜例13 135小節目～

CD TRACK 88

The musical score for Example 13 is presented in two systems. The first system shows measures 135 to 140. The right hand (treble clef) plays a series of eighth notes in an octave pattern, starting with a piano (*pp*) dynamic. The left hand (bass clef) plays a steady triplet of eighth notes. The second system shows measures 141 to 146. The right hand continues the octave pattern, while the left hand maintains the triplet. The score is in 12/8 time and features a key signature of three flats.